



同窓会 千南原

第31号

平成29年(2017年) 10月1日発行

【編集・発行】

〒426-8577 藤枝市天王町1丁目7-1 静岡県立藤枝東高等学校同窓会

【同窓会】

電話/054-645-3527 FAX/054-645-3529 <同窓生数>25,809名 <在学生数>892名 <職員数>70名

【印刷】

〒426-0041 藤枝市高柳1丁目18-23 株式会社共立アイコム 電話/054-635-4651(代)

母校の後輩たちへ栄光を伝えて



日本サッカー殿堂入りの記念盾を寄託した松永行さんの甥史郎さん(中央左)

開校以来、本校は「蹴球サッカー」を校技としており、その輝かしい歴史の中で多くの名選手を輩出している。1936(昭和11)年のベルリン五輪で活躍した松永行(まつながあきら)さんもその一人である。松永さんは1943(昭和18)年1月にガダルカナル島で戦死したが、2016(平成28年)に第11回オリンピック競技大会(ベルリン)日本代表チームが日本サッカー殿堂入り、日本サッカー協会から顕彰された。「母校の後輩たちに伝統を伝えてもらいたい」と、2017(平成29)年3月28日、甥の松永史郎さんが来校して、殿堂入りの記念盾を本校に寄託した。

サッカー殿堂入りベルリン五輪代表 松永行氏(第5回生)の盾寄託

松永行さん(1914(大正3)年9月21日〜1943(昭和18)年1月20日)は、本校第5回生で志太郡東益津村(現焼津市)の出身。松永信夫さん(第11回生)、松永碩(せき)さん(第17回生)は実弟で、三人ともサッカー日本代表として活躍され、松永三兄弟とよばれた。行さんは、フットボールを始めたのは、小学4年生の時に、百メートル10秒8の俊足であったという。卒業後、東京文理科大学附属東京高等師範学校(現筑波大学)に入学し、全日本蹴球選手権大会(天皇杯)準優勝などと活躍された。ベルリン五輪の日本代表に志太中の1年先輩の笹野積次さん(第4回生・早稲田大)とともに選出された。出発にあたり、郷土の誇りとして藤枝町体育協会が応援資金調達のための映画会を開催し、盛大な壮行会が行われた。そのあゆみにも、講堂前で撮影された両選手の壮行会の写真が載せられている。ベルリン五輪日本代表チームは、第13回日本サッカー殿堂に新設された「チーム」として掲げられることになった。日本サッカー殿堂(日本サッカーミュージアム)地下1階)には、現在73名と1チームが掲げられている。

愛され、応援される学校に!



校長 長井 利樹

今春の県の人事異動によりまして、伝統ある藤枝東高校の仲間に入れていただくことになりました長井と申します。よろしくお願いたします。

この原稿の依頼を戴きましたのが7月、ふと気がつけば季節は夏で、本校での生活も、すでに4カ月が経過しようとしています。

私にとりましてこの4カ月は、たくさ

んの喜びと感動、そして幸せをもらい、「千南原」の地と、「東高」が大好きになった時間でありました。

ある地域の方はこう話してくれました。「夕方、下校時に、自転車通学の東高生が蓮華寺池公園横の交差点を、自転車を降り、自転車を引いて、他の歩行者に気遣いながら渡っていた。しかも、私が見ている間、来る生徒、来る生徒、全員が自然に、当たり前のようにしていた。噂には聞いていたけれど、東高生、すごいですね」と。またある方は、朝、学校の周辺を掃除しているサッカー部の生徒たちの姿を見て、「地域のためにも活動してくれて、あいさつも元気なできて、いい子達ですね」と言ってくれました。

その度に、私は、自分が褒められているかのような気分になり、とても嬉しく、幸せな気持ちに包まれたのです。

御承知のとおり本校は、サッカーを「校技」とし、校訓「至誠一貫」の下、文武両道を謳い、

勉学のみならず、部活動に、学校行事に、何事にも懸命に取り組み、これからの地域・社会、次代を担うに相応しい人材の育成と、人格形成に主眼をおいて、日々の教育活動にあたりてきた学校であります。私は赴任直後、生徒たちに、「地域から愛され、応援される学校になろう」とも、次の三つのことについて話しました。「人としてどうあるべきか、どうするべきかを常に正しく判断し、行動できる人であること」「学ぶこと、そして共に学ぶ仲間を大切にすること」「思いやりと感謝の気持ちを保持して、毎日元気に学校に来ること」です。これまで先輩方が、脈々と大切に繋いでこられたものがあります。それを、生徒たちとともにきちんと繋ぎ、本校の素晴らしい伝統をしっかりと守っていく所存であります。同窓生の皆様には、そうした私どもを、どうか温かく見守って戴きますとともに、母校「東高」への一層の御支援、御力添えをお願いいたします。

最後になりますが、本校同窓会の今後益々の御発展を心よりお祈りし、挨拶いたします。



60周年記念誌「サッカー六十年のあゆみ」より。右が松永行さん、中央が笹野積次さん。

ムを変更し、初戦のスウェーデン代表に挑んだ。前半に2失点とリードされるものの、後半は運動量とパスワークで上回り、同点に追いつくと、85分に松永行さんが相手ゴールキーパーの股下を抜く決勝ゴールを決め、見事勝利を収めた。この大会、日本はサッカーでオリンピック初出場であり、体格に勝る強豪スウェーデンが圧倒的に有利との下馬評を覆しての3-2での勝利は「ベルリンの奇跡」と賞賛され、語り継がれている。スウェーデンのラジオ放送の実況アナウンサーが、「Japaner, Japaner, Japaner. Japaner」と連呼、試合終了後、6000人の観客の多くがピッチになだれ込み、日本の勝利を祝福したという。開催地ドイツをはじめヨーロッパ各地の新聞は「不可能なことが起きた」「こんなことを想像できなかったらうか」「美しく正々堂々とした戦いだっただ。日本の戦いが歓喜を呼んだのだ」と報じた。東京の国立競技場内であった秩父宮記念スポーツ博物館に展示されていた現存する最古の日本代表のユニフォームは、松永さんが着用していたものである。

松永さんは、3年生の1937(昭和12)年、陸軍に従軍して静岡の連隊に配属された。その時に妹さんに「戦争には行きたくない。もう一度ドイツに行つて蹴球(サッカー)を学び、指導者になりたい」と語ったという。中隊長を務め戦地でも部下にサッカーを教えていたが、オランダ領東インド方面へ転戦した後、1943(昭和18)年1月に29歳でガダルカナル島で戦死された。

「母校の後輩たちに伝統を伝えてもらいたい」と記念盾を寄託された甥の松永史郎さん(第28回生)、同じく43回生の村松章隆さん(第28回生)、同じく43回生の村松章隆さんらと来校、松本直己前校長に記念盾を手渡した。先輩から後輩へ、栄光の歴史を引き継いでいってほしいとの思いが託された盾は、玄関前に展示されている。

人工芝張り替え

母校、東高のグラウンドが土から人工芝に生まれ変わって丸8年。劣化が著しく、体育の授業や部活動などに支障が出てきたことから、全面張り替えの必要性が高まった。現況を踏まえて検討を重ね、8月4日に「人工芝整備実行委員会」が発足、張り替えに向けた活動が本格化した。工事の完了は来年春の予定。

現在の人工芝グラウンドは平成21年春に完成。サッカーを校技とする東高の新拠点となっている。活用状況を見ると、平日は午前8時40分から午後3時20分まで一般生徒が授業で使用、4時から6時30分までサッカー部が練習している。さらに、夜間になると、藤枝東FCの小中学生やOBの同好の士に開放され、土日はサッカー部の公式戦や練習試合が行われるなど、年間を通してフル稼働状態にある。使用率は授業53%、サッカー部30%、その他17%となっている。

高い使用頻度で人工芝に想定以上の負担が懸かっていた。3、4年前から凹凸や摩耗が目立つようになり、今年6月には荒れた表面に足を取られ、骨折事故も発生した。こうした状況を受け、全面張り替えすることになった。



8年経ち、あちらこちらに綻びが(左上は部分張り替え)

活動を主導する「人工芝整備委員会」は学校後援会、同窓会、サッカー部後援会、サッカー部OB会、サッカー部父母の会の5団体で組織し、委員長は学校後援会長の北村正平藤枝市長が務める。張り替えを推進するための最大課題は資金確保で、同委員会は同窓生を中心に学校関係者や一般篤志家を対象に募金活動と呼び掛ける。

人工芝の敷設になる同窓会維持会費の向上のため組織規約委員会と連携しながら活動を行う。

29年度総会と今後の活動について

本年度の東高同窓会総会は平成29年7月1日(土)に藤枝市の小形苑において多数の役員の皆様のご出席をいただき開催されました。「おにぎりどんえ」(藤枝市市議員43年卒・41回)によるトークとミニコンサートを開催し、引き続き28年度事業決算報告、監査報告と29年度事業計画並びに会計予算について審議され原案の通り可決されました。尚、28年度決算報告につきましては本紙記載の通りです。本年度は役員改選等の懸案項目はありませんでしたが、8年前に新しく張った校庭の人工芝は、使用頻度が激しいために予定より早く張り替えが必要となり、財政問題として十分に考慮しながら、協力のあり方について検討されました。詳細については学校後援会やサッカー部後援会等の関係団体で構成される委員会にて検討されます。

次に今後の委員会活動について簡単に報告いたします。

個人情報保護法等により会員名簿の作成が困難な時代ですが、組織強化のために各回別委員と積極的話し合いを行い、回別組織づくりの方向性等について総務委員会と協力して検討を行う。

平成28年度 藤枝東高等学校同窓会会計決算書

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

収入総額 21,974,384円
支出総額 21,974,384円
差引金額 0円

収入の部

科目	28年度決算額	28年度予算額	増減	摘要
繰越金	15,275,251	15,275,251	0	
特別会計からの繰入	223,961	223,961	0	
入会金	2,850,000	2,853,000	△3,000	10,000円×282名 3,000円×10名
寄付及び総会費	3,618,608	4,500,000	△881,392	維持費・総会費
雑収入	6,564	50,000	△43,436	預金利息等
合計	21,974,384	22,902,212	△927,828	

支出の部

科目	28年度決算額	28年度予算額	増減	摘要
会議費	1,107,945	1,200,000	△92,055	本部役員会、役員総会、委員会
事務局費	2,995,789	3,440,000	△444,211	
事務費	413,100	500,000	△86,900	
旅費	146,400	160,000	△13,960	本部役員会・関東・中部・近畿地区会
印刷費	1,105,800	1,150,000	△44,200	会報送付用封筒・業務用コピー用紙
通信費	1,321,311	1,480,000	△158,689	会報送付費用・住居費・雑費
通運費	0	100,000	△100,000	
消耗品費	9,538	50,000	△40,462	クリアブック等
事業費	2,118,925	2,320,000	△201,075	
記念品費	489,745	500,000	△10,255	卒業生記念品、入会記念品
活動助成費	179,188	150,000	29,188	藤枝・関東支部
会費	25,346	60,000	△34,654	祝電・弔電・香典・生花
補助費	100,000	100,000	0	千南原会館維持費補助
会館整備費	355,100	300,000	55,100	同窓会館壁の張替え
保険料	54,350	60,000	△5,650	同窓会館火災保険料
渉外費	86,208	150,000	△63,792	各関係の団体等への祝儀・会報執筆費等
特別会計補助金	790,000	900,000	△110,000	活動助成
雑費	39,168	100,000	△60,832	卒業生用紙代・貸金庫等
予備費	0	15,942,212	△15,942,212	
次年度繰越	15,751,725	0	15,751,725	
合計	21,974,384	22,902,212	△927,828	